高周波超音波を用いた生体組織の非侵襲3次元定量測定法の改良検討 Non-invasive 3D observation of biological sample using high frequency ultrasound.

*田中 雄次郎^{1,2},酒井 洸児^{1,2},村井 友海¹,林 勝義^{1,2},1 NTT先端集積デバイス研究所,2 NTT物性科学基礎研究所 *Yujiro Tanaka^{1, 2}, Koji Sakai^{1, 2}, Tomomi Murai¹, Katsuyoshi Hayashi^{1, 2}, 1 NTT Device Technology Labs, 2 NTT Bio-Medical Informatics Research Center Email: yujiro.tanaka@ntt.com

アブストラクト 生きた細胞や組織の物性を非侵襲かつ定量的に三次元で可視化できる音響インピーダンス顕微鏡が注目されている. 超音波ビームの集光によ りビームが深さ方向に広がるため測定深度(3 um程度)が制約されている.厚い細胞,スフェロイド,オルガノイドなど培養組織への適用に向け測定深度の 改良が望まれている.本研究では,超音波ビームプロファイルを考慮した受信信号補正により厚さ7um程度の心筋細胞への適用可能性を示した.



結論

提案手法により細胞骨格と核を明確に描出した. 細胞内での音速を 1600 m/s と仮定すると細胞の厚 さは約7 µmである. 先行研究の細胞より厚みのある細胞の三次元の音響インピーダンスマッピングが 可能である見通しを得た.今後,多重反射の影響やビームの広がりの影響の除去を進め,細胞の輪郭上 部に残るゴーストの除去や解像度の向上を進める予定である.

参考文献

細胞骨格や細胞質の輪郭が描出可能である見込みを得た

[1] Prastika, Edo Bagus, et al. "Acoustic impedance interpretation of cross-sectional human skin by using time and frequency domain deconvolution." Japanese Journal of Applied Physics 59.SK (2020):